

数理 News 2015-1

東京大学大学院数理科学研究科

平成 27 年 9 月 28 日発行

編集：広報委員会

数理ニュースへの投稿先 : surinews@ms.u-tokyo.ac.jp

数理ニュースホームページ : <http://www.ms.u-tokyo.ac.jp/publication/surinews.html>



2015年度の数理科学研究科

数理科学研究科長

坪井 俊

昨年の数理ニュースでは、東京大学の総長の選考のための学内での選挙の前の様子を書きましたが、その後の選挙およびその結果を尊重した総長選考会議の決定により、五神総長の新しい大学執行部が4月に始動しました。

4月からは「学部教育の総合的改革」の実施段階ということでターム制が始まり、S1, S2, A1, A2, Wというタームで、105分を一コマとする授業時間割で、授業をすることとなり、そのS1, S2タームが終わったということです。新しい大学執行部は実施段階においての多くの不具合を来年度以降改善する方策をとっています。今年度は、4月5月のS1ターム、6月7月のS2ターム、9月10月のA1ターム、11月12月のA2ターム、1月2月のWタームという5つの枠で授業が行われますが、来年度はA1ターム、A2タームは半月繰り下がり、Wタームは、5週ほどの集中講義等を開設できる枠となります。また全学的に学事暦は統一されたものとなります。

学部前期課程の数学部会としては、教養学部1年生の数学の授業を再編成し、理系においてはS1タームに高校での数学教育と大学での数学教育をつなぐ「数理科学基礎」を導入し、S2, A1, A2にわたる微分積分学、線形代数の講義という形にしたこと、2年生S1, S2タームの科目を微分積分学続論、常微分方程式、ベクトル解析、解析学基礎に再編成しました。解析学基礎は1年生も履修可としたところ、1年生の履修者がかなりの数にのぼったということもありました。「数理科学基礎」では、そのシラバスについて長期にわたる精密な議論が行われ、さらに共通資料を作成し学生に配布しました。現在はこれについての反省点を洗い出しているところです。この難しい仕事にあたられているスタッフの皆様には感謝いたします。

2012年10月からの「数物フロンティア・リーディング大学院」も今年3月に修了生を出し、今年度は、中間評価を受けることになりました。2013年1月にスタートした「転写の機構解明のための動態システム生物医学数理解析拠点」の中間評価も昨年受けました。数理科学の社会との連携を促進するために、2013年4月に設立した大学院数理科学研究科附属数理科学連携基盤センターは、今年の4月から東京大学基本組織規則の第44条に定める 附属教育研究施設として認められました。その結果、大学のパンフレット等に 附属数理科学連携基盤センターの名前が載るようになりました。

研究倫理に関しては、教職員学生は外から見える形で行動規範を維持することを要請され、特に数理科学研究科の教員等は、CITI Japanの研究者行動規範教育を受講することになりました。このCITI Japanは、多くの外部資金への応募のためにも必須となっているものです。

大学全体の問題としては、東京大学に500億円という運営費交付金780億円の予算が来ているという出資金事業については、やっと出資事業を行なう道筋が整理され、これから認可を求めることになりました。

大学での人材育成について、社会の関心が高いのは悪いことではないのですが、大学の存立の基礎となる経費を削減して、十分には議論が尽くされていない方向へ改革と称して予算による誘導を行っているように見えます。うまくいっているものを壊すような改革を避けさせるためには、何が大切かを訴えることができるように、大学からの情報の普段からの発信が重要であろうと思います。社会から見た大学については、入試がもちろん最大の関心事の一つです。理由はよくわかりませんが、大学の入試を変えるという議論がされています。東京大学は、来年度入学する学生のうち100名を推薦入試で選考することになり、その募集要項も公開されました。やってみなくてはわからないことですが、意味のある入試として、前期日程試験を補完するものになることを祈っています。

現在、大学の中でスーパーグローバル大学なるプロジェクトが進行していますが、数理科学はもともとグローバルな性質を持っており、国際的な教育交流、学术交流は当たり前とされていると思います。実際、諸先輩たちも、そういう活躍をされてきました。20歳代における国際交流の経験は、その人の人生を決める重要なものとなることは疑いないのですが、数理科学研究科では、その時期は修士論文を書き上げるころが最も適切であるように思います。現在の「数物フロンティア・リーディング大学院」のコース生にはそういう機会が十分に提供されています。

数理科学研究科は、大学あるいは研究所とのいくつかの学術協力協定を主体的に担っており、韓国のKIASとは10年前の2005年から毎年、東京とソウルで交互にシンポジウムを行っており、今年は12月に東京でシンポジウムを行う予定です。また、フランスのENS Lyonとは、2011年のTodai Forumのときにリヨン、2013年は東京、今年6月にリヨンでシンポジウムを行いました。今年新たにロシアのHSEとの部局協定が締結されました。また、戦略的パートナーシップを結ぶというプロジェクトでは、特にプリンストン大学、カリフォルニア大学バークレー校とのスクールを2015年3月、2015年7月に開催しています。これらの交流の中で、若手研究者が大きく伸びるとともに、数理科学自体の研究が進んでいくことを期待しています。



7月 玉原国際セミナーハウス環境整備にて
(撮影:千葉栄夫)

人事ニュース

平成27年3月31日～8月31日

教員

転入

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
27.4.1	植田 一石	大学院数理科学研究科 准教授	大阪大学大学院理学研究科 准教授
27.4.1	木田 良才	大学院数理科学研究科 准教授	京都大学大学院理学研究科 准教授
27.4.1	佐々田 槿子	大学院数理科学研究科 准教授	慶応義塾大学理工学部 専任講師
27.4.1	Ørsted,Bent	大学院数理科学研究科 特任教授	オーフス大学 教授
27.4.1	神吉 雅崇	大学院数理科学研究科 特任助教	立教大学理学部(日本学術振興会特別研究員)
27.4.1	千葉 優作	大学院数理科学研究科 特任助教	東京工業大学大学院理工学研究科(日本学術振興会特別研究員)
27.5.18	Duncan,John Francis Robert	大学院数理科学研究科 特任准教授	ケース・ウェスタン・リザーブ大学 准教授
27.6.1	若林 泰央	大学院数理科学研究科 特任助教	京都大学大学院理学研究科(日本学術振興会特別研究員)
27.6.25	Pevzner,Michael	大学院数理科学研究科 特任教授	ランス大学 教授
27.7.10	Baum,Paul Frank	大学院数理科学研究科 特任教授	ペンシルバニア州立大学 教授
27.8.20	Voronov,Alexander	大学院数理科学研究科 特任教授	ミネソタ大学 教授

転出

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
27.3.31	織田 孝幸	定年退職	大学院数理科学研究科 教授
27.3.31	宮岡 洋一	定年退職(中央大学理工学部教授)	大学院数理科学研究科 教授
27.3.31	楠岡 成雄	退職	大学院数理科学研究科 教授
27.3.31	細野 忍	学習院大学 理学部数学科 教授	大学院数理科学研究科 准教授
27.3.31	金井 政宏	退職(数理特任研究員)	大学院数理科学研究科 特任助教
27.3.31	筒井 容平	退職(信州大学テニュアトラック助教)	大学院数理科学研究科 特任助教
27.5.31	津嶋 貴弘	千葉大学 理学部 数学情報数学科 助教	大学院数理科学研究科 特任助教
27.7.10	Ørsted,Bent	オーフス大学 教授	大学院数理科学研究科 特任助教
27.7.15	Pevzner,Michael	ランス大学 教授	大学院数理科学研究科 特任助教
27.7.25	Baum,Paul Frank	ペンシルバニア州立大学 教授	大学院数理科学研究科 特任助教
27.8.16	Duncan,John Francis Robert	ケース・ウェスタン・リザーブ大学 准教授	大学院数理科学研究科 特任准教授

昇任

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
27.4.1	Willox,Ralph	大学院数理科学研究科 教授	大学院数理科学研究科 准教授
27.4.1	大田 佳宏	大学院数理科学研究科 特任教授	大学院数理科学研究科 特任准教授

職員

転入

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
27.4.1	千葉 栄夫	教養学部等総務課副課長(数理担当)	柏地区共通事務センター 専門員
27.4.1	加藤 美峰	教養学部等総務課数理科学総務係 事務補佐員	
27.4.1	木村 千香	大学院数理科学研究科 事務補佐員	
27.4.1	矢田 世津子	教養学部等総務課数理科学総務係 事務補佐員	
27.6.1	八木橋 由紀子	教養学部等総務課数理科学総務係 事務補佐員	
27.7.1	磯山 勉	教養学部等総務課専門職員(数理担当)兼数理科学総務係長	独立行政法人大学入試センター事業部事業第三課業務調整係
27.7.1	谷崎 典子	大学院数理科学研究科 学術支援職員	大学院数理科学研究科 事務補佐員
27.7.1	池田 亜紀	教養学部等総務課数理科学総務係 事務補佐員	
27.7.13	梅林 愛子	大学院数理科学研究科 学術支援職員	

転出

異動年月日	氏名	新職名	旧職名等
27.3.31	富山 三弘	教養学部等学生支援課長	教養学部等総務課副課長(数理担当)
27.3.31	久光 とも子	退職	大学院数理科学研究科 学術支援職員
27.3.31	福本 雅子	退職	大学院数理科学研究科 学術支援職員
27.3.31	金子 道子	退職	教養学部等総務課数理科学総務係 事務補佐員
27.5.30	高杉 薫	退職	教養学部等総務課数理科学総務係 事務補佐員
27.6.30	中川 健太郎	退職	教養学部等総務課数理科学総務係長
27.6.30	谷崎 典子	大学院数理科学研究科 学術支援職員	大学院数理科学研究科 事務補佐員
27.8.3	梅林 愛子	退職	大学院数理科学研究科 学術支援職員

—新任紹介・教員—

植田 一石 大学院数理科学研究科 准教授

この四月に着任した植田一石です。高校までは大阪と奈良に住み、大学と大学院は京都で過ごして、その後はずっと大阪大学に所属していたので、オクスフォードやボン、ソウルなどの国外を除けば、関西以外に住むのは初めてになります。

これまでは弦理論と関わる数学について、ミラー対称性を中心に研究してきました。科学としての弦理論にはかなり厳しい意見を持つ人もいますが、その数学的な内容は豊かであり、Wittenに代表される弦の理論家たちは、数学的に正当化することの難しい議論を駆使することによって、様々な驚くべき予言を行いました。それらの予言を理解するための努力は、頂点作用素代数や量子コホモロジー、三角圏の安定性条件などの興味深くかつ重要な対象を産み出すとともに、Riemann面のモジュライ空間や可積分系、超幾何関数などの研究を促し、数学に多大な進歩をもたらしました。また逆に、数学で既に知られていた事実が、弦理論の文脈で新たな解釈を与えられるという事もしばしば起こります。この弦理論と数学の幸福な関係は四半世紀を超えて、未だに深化し続けています。弦理論はその信奉者たちによって、全ての力と物質を統一する森羅万象の理論であると喧伝されて来ましたが、弦理論と関わる数学は幅広く、実際には物理ではなく数学を統一しようとしているようにさえ見えます。その背後にある原理を少しでも明らかにしたいと思って、日々研究をしています。

木田 良才 大学院数理科学研究科 准教授

学部、大学院を京都大学で過ごし、東北大学、京都大学での勤務を経て4月1日より現職に着任しました。職場が変わると、多少の苦労はあるものの、新鮮な気持ちで仕事に取り組むことができるので、これからの研究・教育活動がより充実したものになるであろうと期待しているところです。これまでも研究集会等で駒場キャンパスを訪れる機会は度々あり、緑豊かで広々としたキャンパスをとでもうらやましく思っておりました。渋谷駅にごく近い都会の喧噪の中、このような落ち着いた雰囲気はなかなか得難いものです。キャンパス内の学生の活発な様子を見ると、私の学生時代を顧みながら刺激を受けます。一方で、保育園児が愛らしく歩いている姿を見ると、家族を連れて一緒に散歩したい気持ちになります。このキャンパスで仕事ができることに日々喜びを感じています。

私は、主に離散群を研究しています。中でも、関数解析的・幾何学的なアプローチによる離散群の理解を試みています。離散群論は、動機・技術の両面で多様な分野とつながりがあり、研究を通して多くのことが学べるだけでなく、思いがけない成果が見られる魅力ある分野です。職場が変わったこの機会に、何か新しいことができればいいなと思っています。日々の精進を絶やさず、分野の発展に貢献できるよう努力していく所存です。どうぞよろしく願いいたします。

佐々田 槇子 大学院数理科学研究科 准教授

4月から東大数理に戻ってくることになりました。学部1年から8年を過ごした場所であり、慣れ親しんだ研究科棟で仕事ができることをとても嬉しく思っています。

専門分野は確率論で、統計物理学と関連の深い問題を研究しています。学生時代から、様々な物理現象や生物現象、社会現象のメカニズムが数学を用いることで非常に明快に理解できることにとても面白さを感じていました。なかでも、原子や分子等のミクロな世界から、我々が日常目にするマクロな世界を説明する統計物理学には、現代確率論の非常に深い理論が用いられています。非平衡統計物理学にはまだまだ未解明なことが多く、数学的にも物理的にも興味深いテーマがたくさんあり、わくわくと研究をしています。

個人的なことですが、昨年夏に出産し、現在は1歳の子供を毎日保育園に預けての研究生活です。子供の笑顔には全てを忘れさせて元気をくれる不思議な力がありますが、うっかり研究のアイデアもどんどん忘れていきそうで、切り替え方を模索中です。ぜひ子育て経験者の方のアドバイスをいただきたいと思うと同時に、将来は研究も子育てもしたいけれどできるのか不安だ、という学生さんや研究員の方とも対話し知恵を出しあいながら、充実した研究・教育活動をしていきたいと思っています。

神吉 雅崇 大学院数理科学研究科 特任助教

2015年4月より数物フロンティア・リーディング大学院の特任助教として採用された神吉雅崇と申します。生まれは関西で、大学進学のため東京に出てもう11年目となりました。昨年度は池袋にある立教大学に学振研究員PDとして所属しておりました。都心間の移動のため生活に大きな変化はありませんが、身分が教員相当になったことで身の引き締まる思いです。特に4学期制の開始と同時に採用になり、教養教育の重要性と難しさをひしひしと感じています。

とはいえ東大数理は蔵書や電子ジャーナルも豊富で、様々な分野の研究者と触れ合える、最高レベルの環境であることは間違いなく、そのような環境に身をおくことができること大変光栄に思います。さて、私の研究分野は可積分系と呼ばれる数理物理や応用数理の一分野で、私は特に離散可積分系に興味を持っています。連続系の可積分性については十分な知見がありますが、離散方程式の可積分性についてはいくつか有力な解釈があるものの、統一された判定基準は存在しません。従来理論では判別が困難な方程式について厳密な取り扱いを行うことが現在の目標であり、色々な分野の方々との議論をさせて頂けると幸いです。研究も教育もまだ分からないことばかりで皆様にご迷惑をおかけすることと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

千葉 優作 大学院数理科学研究科 特任助教

4月から着任いたしました千葉優作と申します。学位取得後は東京大学、東京工業大学で研究員をやっておりました。東京にはかれこれ10年以上住み続けていることとなりますが、出身地は秋田です。

専門は多変数関数論で、特にネヴァンリンナ理論、小林双曲性を研究しています。あまり聞き慣れない言葉だと思いますが、どちらも正則写像の振る舞いを調べる理論で、複素解析学で習う(かもしれない)ピカールの大定理・小定理などの一般化を研究します。他にも複素モンジュ・アンペール方程式や正則葉層構造などに興味を持っておりますが、あまり分野にとらわれず、独自の数学を展開することを目標に努力していきたいと思ひます。ちなみに、論文を書くときに名前をChibaではなく、Tibaとしていますが、特に深い理由があるわけではありせん。

私はよく東大近くの喫茶店などを転々として数学を研究・勉強しております。不思議なもので、あまり静かな場所よりも多少にぎやかな場所のほうが集中できるようです。それにいろいろな場所で考えると、気分転換になり、新しいアイデアを思いつけるのではないかと期待もしております。もし見かけましたら、お気軽に話しかけてくださると嬉しいです。それでは、どうぞよろしくお願ひいたします。

若林 泰央 大学院数理科学研究科 特任助教

6月1日付けで特任助教として着任いたしました若林泰央と申します。身を引き締めて新天地での研究・教育活動に取り組んで参りたいです。

専門は双曲的代数曲線に関連する代数幾何及び数論幾何です。修士課程の頃は遠アーベル幾何、そして博士課程以降は双曲的代数曲線(より一般に安定曲線)上定義された或る種の可積分主束のモジュライ空間の構造を理解することに取り組んでおりました。現在の研究はp進タイヒミュラー理論、グロモフ・ウィッテン理論、幾何的ラングランズ問題、そして組み合わせ論など様々な分野に(少しずつ)関連するため、それらの相互発展に貢献できるよう希望を持って励んでおります。最近は少しずつ他分野へ研究課題を広げている最中ですので、皆様と交流し色々学ばせて頂きたいです。

今年度4~5月は京大数学教室に学振特別研究員(PD)としてお世話になり、学部から数えて10年ほど京都で過ごした後にこのように東大数理へ異動する運びとなりました。京都市内の道は基盤の目をしており、その真つすぐな道をただひたすら歩きながら数学に耽るのが数少ない日々の楽しみの一つでした。東大近辺で同様に素敵な散歩道を知ってる方がおられましたら是非教えて頂けると幸いです。そのほか色々分からないことが多いので、どうぞ皆様ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

—新任紹介・職員—

千葉 栄夫 教養学部等総務課副課長

4月1日付けで、柏地区共通事務センターから富山副課長の後任として着任しました。駒場キャンパスには平成19年7月から平成23年3月まで総務課主査として在職していましたが、再び、この緑の多い環境の中で仕事をさせていただくことをたいへん光栄に思います。

今回は数理科学研究科の担当ということで業務の内容も多岐にわたり未経験のことが多く戸惑うことばかりですが、1日も早く先生方のお力になれるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

磯山 勉 教養学部等総務課係長

7月1日付けで総務係長に着任いたしました磯山です。大学入試センターでの出向期間を経て、3年ぶりの東大復帰となります。採用は六本木時代の生産技術研究所となりますが、さらに前職があり、アニメーション制作会社においてアニメーターをしておりました。

少々変わった経歴の持ち主ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

池田 亜紀 (事務補佐員)

7月1日付けで数理科学研究科総務係に採用されました池田亜紀と申します。高校時代の恩師が理学系研究科のご出身で、私自身大学時代東大のサークルに所属していたこともあり、駒場キャンパスは日々青春時代を思い出させてくれます。不慣れなことが多くご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆様のお役に立てるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。

加藤 美峰 (事務補佐員)

4月1日より数理科学総務係に採用になり、お世話になっております。再び緑豊かな大学で働くことができることを大変嬉しく思います。学生さんたちの元気なパワーをもらいながら、今までの経験を生かし、お役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。

木村 千香（事務補佐員）

4月より数理・FMSPの担当に採用となりました木村と申します。昨年度までは、駒場駅の反対側にあります大学入試センターにて秘書業務と庶務業務をしておりました。大学での本格的な勤務は初めてで、慣れないことやとまどうことも、ご迷惑をおかけしております。少しでもお役に立てるように日々努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

八木橋 由紀子（事務補佐員）

6月1日付けで数理総務係に採用されました八木橋由紀子と申します。前職は岩手大学で文部科学省採択のプロジェクトの事務補佐員をしていました。新しい環境で不慣れなため、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、皆様のお役に立てるよう、日々努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

矢田 世津子（事務補佐員）

4月1日付けで数理科学総務係事務補佐員として採用いただきました矢田でございます。主にJST受託、科研費分担金、共同研究、戦略的パートナーシップ、運営費交付金の執行を担当いたします。

3月末まで千葉大学にて外部資金執行と研究室秘書をしておりましたので、重なる業務もありますが、まだまだ先輩職員の方々に支えていただきながらの日々でございます。至らぬ点も多々あるかと思いますが努力を怠らず、先生方、学生の皆様、職員の皆様のサポートに心を注ぎたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

一数理トピックス一

大学院数理科学研究科入進学式

平成27年4月3日、大学院数理科学研究科修士・博士課程入進学式が大講義室にて行われました。坪井研究科長、金井専攻長の式辞に続き、藤田名誉教授からご祝辞をいただきました。平成27年度は修士課程に43名入学し、博士課程に28名が進学しました。



坪井研究科長



金井専攻長



藤田名誉教授

春の懇親会

平成27年4月30日、コモンルームにて春の懇親会が開催されました。教員、学生と大勢の皆さんにご参加いただき、食べ物もあつという間に空になるほど、盛況でした。学生同士の交流だけでなく、普段なかなかゆっくり話す機会のない教員と学生とのコミュニケーションの場となりました。



佐武先生の数学・佐武先生の思い出

平成27年5月9日に、昨年10月10日に亡くなられた佐武一郎先生を偲ぶ会「佐武先生の数学・佐武先生の思い出」および夕食会が開かれました。この集会は佐武先生のご専門の数論のグループ、佐武先生が日本で教鞭を取られた東京大学、東北大学、中央大学の皆様の発案で企画されました。

日中に大講義室で開催された集会「佐武先生の数学・佐武先生の思い出」では、佐武先生のお名前の付いた「佐武図形」、「佐武V多様体」、「佐武コンパクト化」などにちなんだ数学が解説され、佐武先生の偉大な足跡を振り返りました。さらに後半は、佐武先生の暖かい人柄を偲びつつ、思い出を語る会となりました。続く夕食会でも、佐武先生の趣味であった蝶の話や、パークレーでの思い出などが語られました。

佐武先生の奥様を始め、たくさんの方にご出席いただき、盛会の内に終了しました。

(文：二木昭人教授 撮影：D1木村満晃)



環境整備

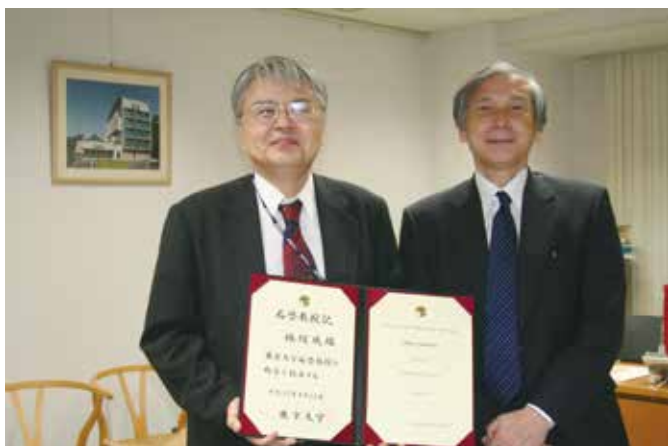
平成27年6月9日、駒場キャンパス内の自然環境保持、環境美化のために、教職員と学生の有志によって、研究科棟周辺の清掃および、備品の廃棄等を行いました。

例年になく大量の廃棄物があり、学生さん達が何往復もして運び出してくれました。環境整備の後は恒例になった(!?)梅拾いをしました。ジャムにすると甘酸っぱく美味しいそうです。

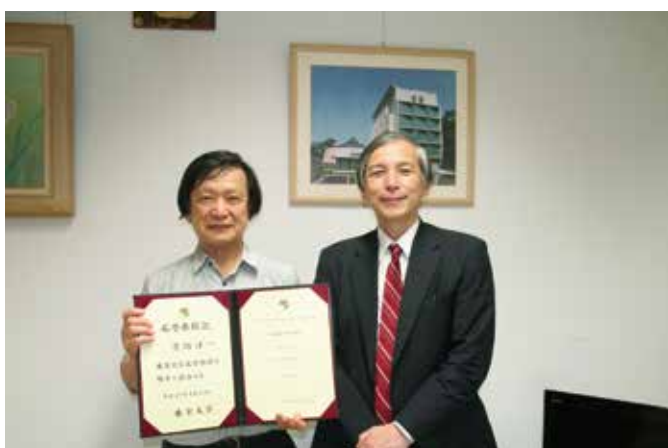


名誉教授の称号授与

平成27年6月23日付で3月に退官された織田孝幸先生、楠岡成雄先生、宮岡洋一先生に東京大学より名誉教授の称号が授与されました。



楠岡名誉教授



宮岡名誉教授

3rd Mathematical Symposium ENS Lyon-Todai

リヨン高等師範学校の数学教室とは、2009年に協定をむすび2011年10月に東大フォーラムをリヨンで開催するのに合わせて、数学のシンポジウムGeometry and Dynamicsを行いました。双方から7つずつの講演を行い、ポスターセッションも行い大学院生も参加しました。2013年9月には、東京でGeometry and Dynamics 2013を行い、双方から4つずつの講演を行いました。

標記のシンポジウムは、これに引き続く3回目のもので、6月24日・25日に双方から4つずつの講演およびポスターセッションを行いました。このシンポジウムの次の週には、ENS Lyonで数学を牽引してきた当研究科にもなじみの深いEtienne Ghys氏の60歳を記念する国際会議Geometries in Actionが開催され、多くの参加者はこちらにも参加して、数学

とともにリヨンの夏を楽しむことが出来ました。今回はフランス側から多大な援助を受けたことをここに記し、感謝したいと存じます。

(坪井 俊教授)



玉原国際セミナーハウス環境整備

平成27年7月12日(日)・13日(月)の1泊2日の日程で、玉原国際セミナーハウスの環境整備の一環として、玉原高原遊歩道等の草刈り作業を行いました。

数理の先生、研究員の方や、教養学部等事務部の各課から総勢18名で、セミナーハウスの敷地及び遊歩道の草刈り、側溝に溜まった落ち葉や泥の除去、灌木の伐採作業がおこなわれました。2日間、炎天下での作業となり、参加いただいた皆様本当にお疲れ様でございました。



(撮影:千葉栄夫)

夏の懇親会

平成27年7月23日、コモンルームにて夏の懇親会が開催されました。会は河野副研究科長の司会で進行しました。今年は100人以上の方が参加し、乾杯と同時に料理に群がる毎度の光景が見受けられました。その後、恒例のスイカ割りが行われました。先生や学生達が順番に目隠しをして長い棒をスイカ目指して振り下ろしました。周りの声掛けも回を重ねるごとに上手になって初めはなかなか割れなかったスイカも割ることができ、歓声があがりました。



(撮影: 笹川利香子)

高校生のための現代数学講座

玉原運営委員会 寺杣友秀

今年も7月18日(土)と25日(土)の二日間で玉原国際セミナーハウスにて、「高校生のための現代数学講座」を行いました。

今年のテーマは「連分数」でした。講師として緒方氏、坂井氏、斎藤(義久)氏、三枝氏の方々にお越し頂き、私も加え、一日3回の講義を2日間、計6回の講義を行いました。主な内容としては、実数を連分数で近似することやフィボナッチ数列の有理数近似についての話題、循環連分数と代数方程式の方程式への応用といった内容で、実数の近似に関連して、ニュートン法に関する話題もとりあげました。毎回、高校生への告知と募集に関して沼田高校の先生にお世話になっており、この場をかりてお礼を申し上げます。今年も18日が24人、25日が34人の高校生と高校の先生が2人の参加で、高校生の多くは1年生でした。アンケートでは、1日目から少し難しいという感想がちらほらみうけられましたが、2日目ではペル方程式に関して興味をもったという感想も多く、高校生の数学講座としての目的は達成できたのではないかと思います。



(撮影: 山田 泰士)

オープンキャンパス

平成27年8月6日、理学部オープンキャンパスにおける数学科の会場には、常時多くの来場者があり、ポスター、数学書の展示、DVD上映に熱心に見入っていた。そこへTA学生たちが実にうまく話しかけてくれ、来場者との活発な交流が生まれていた。来場者にとって、実際に数学の研究をしている年齢の近いTA学生たちとの交流は貴重であったと思う。また、なかなか鋭い切り返しをしてくる高校生もおり、TA学生も「よい成長の機会だった」と述懐していた。企画講演も行われ、金井雅彦先生による講演「いろいろな次元の球～次元が変わると何かが変わる～」(小柴ホール)は立ち見が出て会場から人があふれるほどの大盛況であり、宮本安人先生による講演「偏微分方程式と自然界にある模様」では、聴講者から多くの質問があり、それに宮本先生がとても丁寧に答えている姿が印象的であった。なお、展示したポスターの多くは、河野俊丈先生にご提供いただいたが、そのうち、「クレブシュ3次曲面とその上の27本の直線」のアルミ模型(河野先生作)の写真は、イメージコンテストにも出展され、優秀賞に輝いた。来場者の数学に対する関心の高さを実感した一日であった。この関心の高さが、将来多くの学生の数学科進学につながることを願うばかりである。

(文:高木寛通准教授、撮影:井出野真理子)



一賞一

平成27年春の叙勲

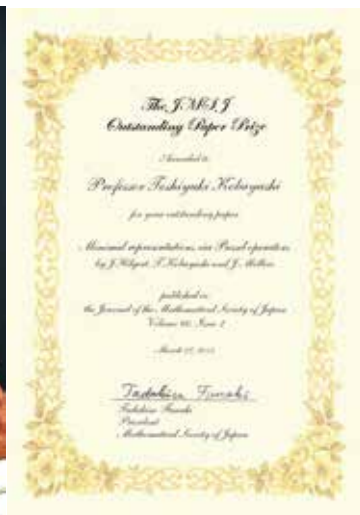
小松彦三郎名誉教授が平成27年春の叙勲で瑞宝中綬章を受章しました。瑞宝章は公務等に長年にわたり従事し成績をあげた方に授与される勲章です。



2015年JMSJ論文賞

小林俊行教授が2015年JMSJ論文賞を受賞しました。JMSJ論文賞はJournal of Mathematical Society of Japan (JMSJ)に掲載された論文のうち、特に優れたものに対し日本数学会が授与するものです。受賞対象となった論文はJMSJ66巻2号に掲載された、J.Hilgert、J.Möllers両氏との共著による「ベッセル作用素による極小表現の理論」です。

(JMSJ 66 (2), (2014), pp.349-414: Minimal representations via Bessel operators)

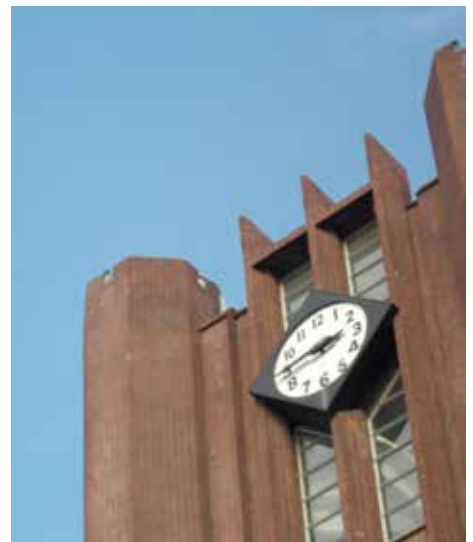


一編集後記一

敗戦後70年をめぐる内外の喧騒、ヨーロッパでの難民受け入れ問題、来年のアメリカ大統領選挙、南シナ海、新国立競技場問題と、解決未解決に関わらずこの夏も慌ただしく過ぎて行きました。そうそう、空調設備の故障は今夏の身近な一大事でした。ご関係の皆様はお疲れさまでした。

芸術家と称する人々による盗作は我が国でも時折話題になってはいますが、東京五輪エンブレムの騒動がSTAP細胞問題のあたかも続編のように現れ、多くの方が研究倫理をあらためて意識されたでしょう。真偽はともかく、仮に同胞によって起こされたのだとすると心が痛む問題で、教育の現場にいる者として、家庭教育も含めその荒廃を憂えます。

大学院入学試験の隙間でこれを書いています。今年も試験が終わるとAタームなる学期がすぐに始まります。学外では学会関係その他の行事が例年通り行われるため、調整も必要になります。学事歴の変更は、私のような古手にはつらいところもあります。老体では、電波でスマートに時刻合わせができるわけでもなく、なかば錆びた龍頭をがりがり引っ張り出さねばなりません。夏にさしてサボった自覚もないのですが、講義ノートは白いまま、今年のおは早く訪れます。



広報委員長 吉田朋広
数理ニュース編集局 片岡陽子